旧石器 縄文 弥生・古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌倉 室町 安土桃山 江戸 明治 大正 昭和

増山城と城下町復元図

5 増山城をめぐる争乱

増山城は、南北朝時代から江戸時代まで使われた城です。越中三大山城❶のひとつに数えられ、国の指定史跡になっています。

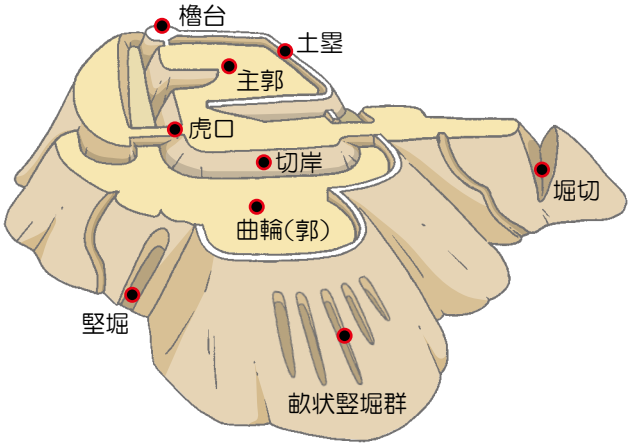
山城の典型例

増山城は、平地や小高い丘に天守閣などをもつ「**平城**」や「**平山城**」とはちがい、山そのものを土木工事によって城に作り変えた「**山城**」とよばれるタイプの城です。日本全国の城のうち、99％以上を占めるのが山城です。増山城は富山県を代表する典型的な山城です。

戦国時代の山城は、山を切り盛りして、曲輪・土塁・堀切などをつくりました。こうしてできた城の構造のことを**縄張**といいます。また、山城は自然地形を生かしてつくられました。上杉謙信は増山城のことを「元来嶮難之地」（もともと険しい場所である）と書状で述べています。

増山城は北に亀山城、孫次山砦といった支城❷を備え、和田川をはさんで対岸に城下町がつくられました。

❶ 砺波市の増山城、高岡市の守山城、魚津市の松倉城をあわせて越中三大山城といいます。
❷ 本城を守るための出城



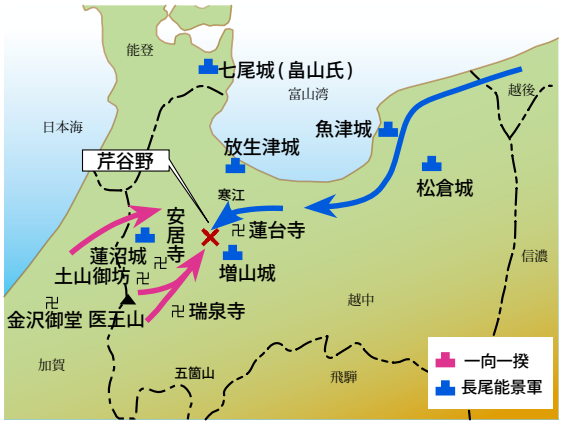
山城の模式図

増山城の関係年表

西暦	年号	出　来　事
1362	貞治元	二宮円阿が和田城などで桃井勢と戦う
1506	永正 3	芹谷野の合戦
1560	永禄 3	長尾景虎（上杉謙信）が越中に出兵 神保長職は富山城から増山城に逃げる
1576	天正 4	上杉謙信が増山城を攻め落とす
1581	天正 9	織田信長の勢力が増山城を攻め落とす
1585	天正 13	佐々成政が増山城を普請する
1586	天正 14	上杉景勝が上洛途中、中田で増山城主 中川光重のもてなしを受ける
1603	慶長 8	蕭が没する

芹谷野の戦い ［砺波市梅檀野］
1506（永正 3）年

越中・加賀の一向一揆 ⚔ 越後守護代 長尾能景 / 越中守護代 神保慶宗



増山城の歴史

増山城は、かつて「**和田城**」とよばれていました。南北朝時代の 1362（貞治元）年には、元越中守護・桃井直常らを攻めるために幕府方（斯波方）の二宮円阿が和田城を守ったとの記録があります。

越中守護・畠山氏❶の守護代として射水・婦負両郡に勢力をもった神保氏は、放生津城（射水市）を本拠とし、重要な支城だった増山城を 15 世紀終わり頃に整備したと考えられます。

❶ 河内国・紀伊国・越中国の守護。越中国には不在だったので、遊佐・神保・椎名の 3 氏を守護代とした。

芹谷野の合戦

1506（永正 3）年、越後守護代である長尾能景（上杉謙信の祖父）は神保慶宗と手を組み、「**芹谷野の合戦**」（芹谷の合戦）で一向一揆方と対決しますが討ち死にし、その子・為景も越中に攻め入り、戦乱が続きます。

1543（天文 12）年、神保長職は富山城を築き、増山城は西の支城となります。その後、“越後の虎”とよばれた上杉謙信は増山城を 3 度も攻撃しました。

織田勢の侵攻と佐々成政

謙信の死後、織田信長勢は北陸への進撃を強め、増山城と木舟城（高岡市）で上杉勢と交戦しました。1583（天正 11）年、織田方の部将である佐々成政❷が越中を平定しました。増山城は佐々氏の支配下となり、整備拡充が図られたと考えられます。成政は、小牧・長久手の戦いで豊臣秀吉と敵対していた織田信雄・徳川家康と結んで、秀吉方の前田利家と加賀・越中の国境で交戦していました。しかしその後、成政は戦うことなく秀吉の軍門に降り、城は前田方の支配となりました。

❷ 尾張国の武将。織田信長の死後、秀吉と敵対した。家康に応援を求めるため、冬の立山をこえた「ザラ峠越え」が有名。

最期の城主・中川光重

その後、利家の重臣、中川光重（巨海斎宗半）が城主となりました。光重は不在期間が長く、実質的には妻の蕭が城を守り、江戸時代のはじめに廃城となったと考えられます。

宗半塚　宗半（光重）が葬られたと伝わる塚（砺波市庄川町庄字金剛寺）